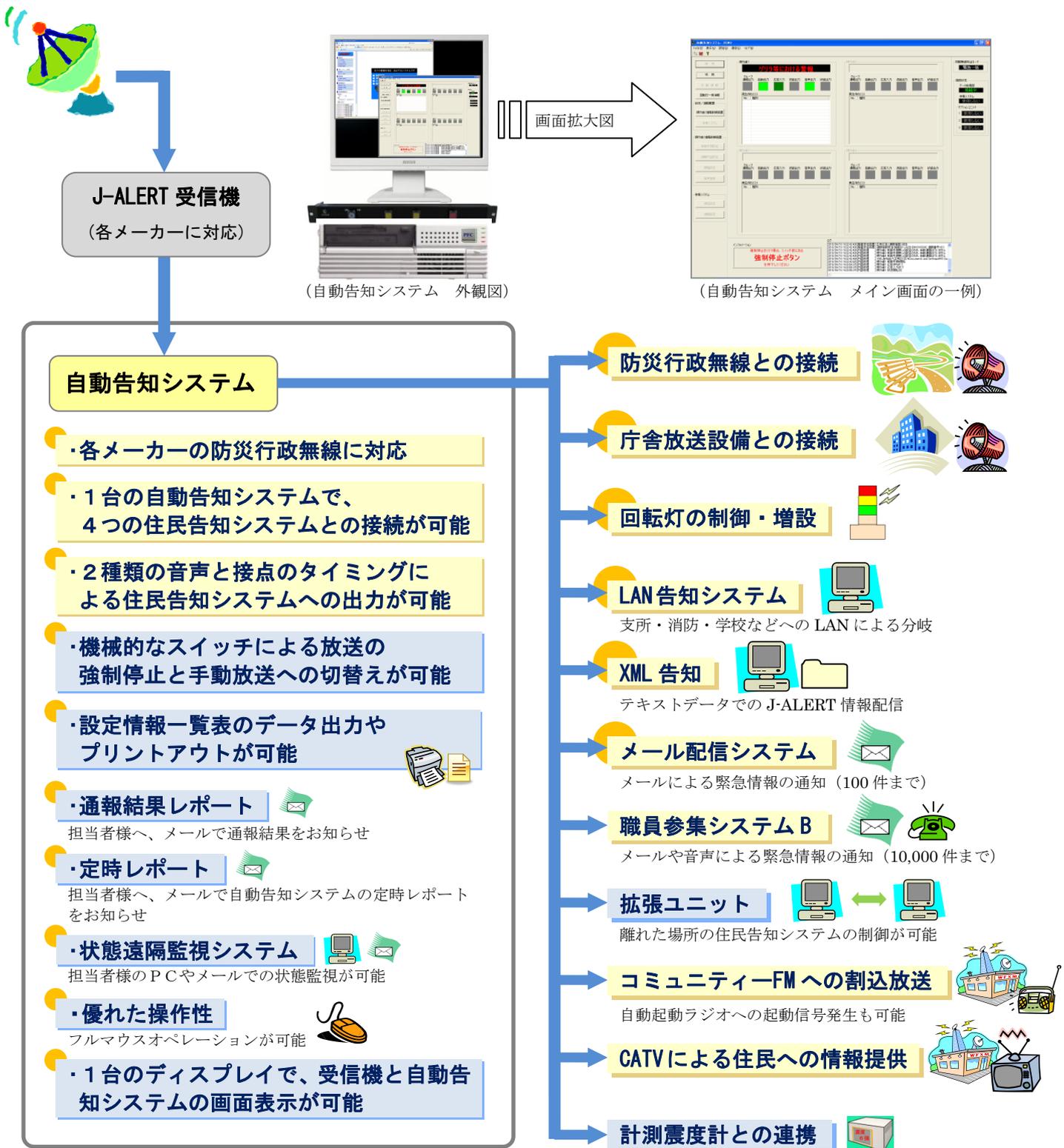


■ J-ALERT の高度化に対応

各メーカーの J-ALERT 受信機に対応しています。

（平成 21 年 12 月発行の J-ALERT 同報無線自動起動装置仕様書に準拠）

■ 構築可能なバリエーション例（下図参照ください）



※各バリエーションの説明は裏面に記載があります。

黄色枠は住民告知システム、青枠はオペレーションに関わる機能を示します。

● オレンジ印は標準機能を示します。印なき機能はオプション扱いとなります。

■ 自動告知システムの特徴とバリエーションの詳細

防災行政無線や庁舎放送設備との接続

各メーカーの防災行政無線に対応しています。(注1)
1台の自動告知システムで、4つの住民告知システムとの接続が可能です。
任意にカスタマイズした制御手順を設定することが可能です。



住民告知システムに合わせた放送

2つの音源ボードを搭載することで、2種類の音声パターンを持ち、接続したシステムの放送開始タイミングに合わせた放送を行います。
(例)
防災行政無線にはゆっくりな音声を10秒後に放送し、庁内放送には早口の音声をすぐに放送することが可能です。



XML 告知

警報・注意報の内容をネットワーク上の任意のフォルダにXMLの書式でファイル化します。
主に防災メールなどのメール配信サービスとの連携に使用可能です。



回転灯の制御・増設

IPアドレスの登録が可能な限り、回転灯を登録することが可能です。
鳴動時間を秒単位で設定し、自動的に消報させることが可能です。



LAN 告知システム

自動起動装置とLANで接続し、自動で音声を再生する機能を持ちます。
アンプなどの放送設備を経由して庁舎内放送への接続が可能です。



メール配信システム

送信先を2つのグループに分けて、最大100名まで緊急情報を送信することが可能です。
テスト送信機能と、動作確認メールの自動送信機能があります。



設定値情報一覧

自動告知システムで設定した音声や制御手順などの設定値を、見やすい形式でデータ出力やプリントアウトすることが可能です。



優れた操作性

1台のディスプレイで受信機と自動告知システムの画面表示が可能です。
フルマウスオペレーションに加え、強制停止や手動放送への切替えはスイッチでの操作が可能です。



状態遠隔監視システム

J-ALERTを構成する機器の異常や通信を監視して、表示色の変更やアラーム音、メールでお知らせします。
ネットワーク上にあるPCであれば、遠隔地から自動告知システムの状態を監視することが可能です。



通報結果・定時レポート

通報結果レポートは、自動放送を行った際、どのような放送がいつ行われたかをメールでお知らせします。
定時レポートは、毎日指定した時刻にシステムが正しく運用されているかをメールでお知らせします。



職員参集システム B

最大のべ10,000名まで緊急情報を送信することが可能です。
音声による通報のカスタマイズも可能です。
送信先の受信確認のための返信受付機能、集計機能を備えています。



コミュニティ FM への割込放送

通常放送中に緊急情報が発令された際、J-ALERTの割込緊急情報を放送し、その後通常放送に復帰します。
自動起動機能付き FM ラジオを自動起動させることも可能です。



CATV による住民への情報提供

CATV 網で使用している告知端末などを用いて住民へ情報を伝えます。



拡張ユニット

自動起動装置とほぼ同等の機能を持ちます。
FM 局や CATV 局が自動告知システムと離れた場所にある場合でも、拡張ユニットを局側に設置することで、FM 放送や CATV を活用することが可能です。



計測震度計との連携

計測震度計で感知した揺れに応じ、住民告知システムへの自動放送が可能です。



(注1) 住民告知システムに外部からの接続機能を有していない場合、メーカーによる改修が必要となる場合があります。

※黄色枠は住民告知システム、青枠はオペレーションに関わる機能を示します。

● オレンジ印は標準機能を示します。印なき機能はオプション扱いとなります。